2023 年 11 月

コロナ禍明けの地蔵盆
アンケート調査結果のご報告

新型コロナウイルス感染症が 2023 年 5 月に 5 類感染症に移行したことを受け，コロナ禍で中断を余儀なくされていた多くの地域行事も再開されつつあります。当調査は，京都市内の町内会・自治会等を対象として地蔵盆の開催状況や再開・継続にむけた課題を把握することを目的として行いました。回答にご協力くださった皆さま方に感謝申し上げますとともに，結果について報告させていただきます。当調査の結果が今後の地域および地蔵盆のあり方を考える上での一助になれば幸いです。

調査主体　：京都大学大学院 人間・環境学研究科 前田研究室
実施責任者：前田昌弘（京都大学 准教授）
実施時期　：7 月中旬～9 月上旬
実施方法　：

①WEB アンケート　以下の HP 等において WEB アンケート回答フォームを公開した

- 実施責任者（前田昌弘）の個人 HP
- 京都市文化市民局文化財保護課　京都をつなぐ無形文化遺産 HP
- 京都市文化市民局地域自治推進室　自治会・町内会 &NPO おうえんポータルサイト

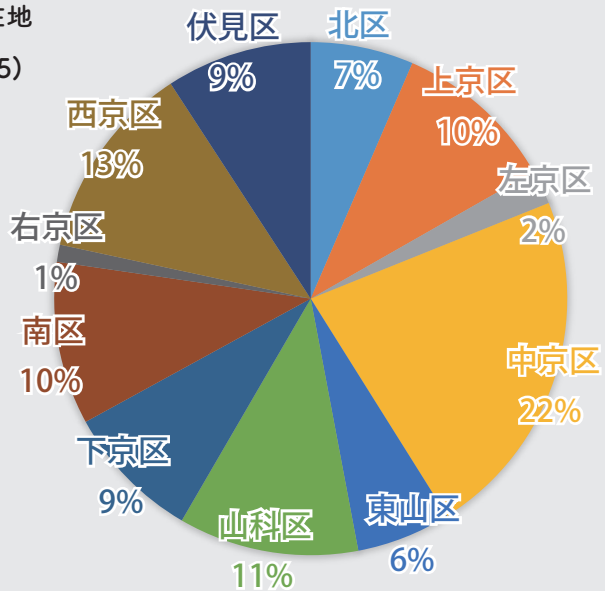
②調査票の配布

京都市文化市民局地域自治推進室を 通じて依頼し，各区・支所（計 14 箇所）のまちづくり担当者から地域の地蔵盆関係者へ調査票を配布した（各 30 部，計 420 部）。また，当研究室で地蔵盆当日（8 月 19 日・20 日）に行った調査（「田の字地区」周辺）で協力が得られた町内には直接手渡しした。

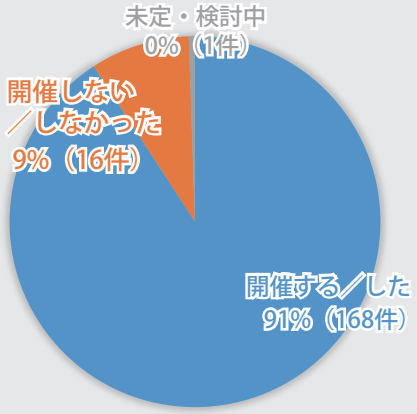
有効回答数：①WEB アンケート 68 件，②調査票 117 件，①＋②**合計 185 件**

ご回答頂いたご町内の所在地

（n=185）



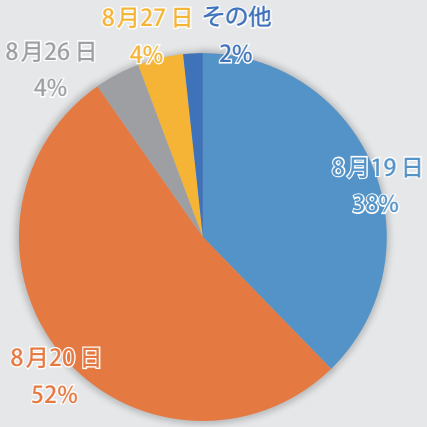
今年，地蔵盆は開催されますか？(n=185)



「開催する／した」が９割を占めた。

＊参考 過去の調査における「開催する」の割合
2020 年：51% 2021 年：44% 2022 年：68%（注：調査対象が異なるので単純比較はできない）

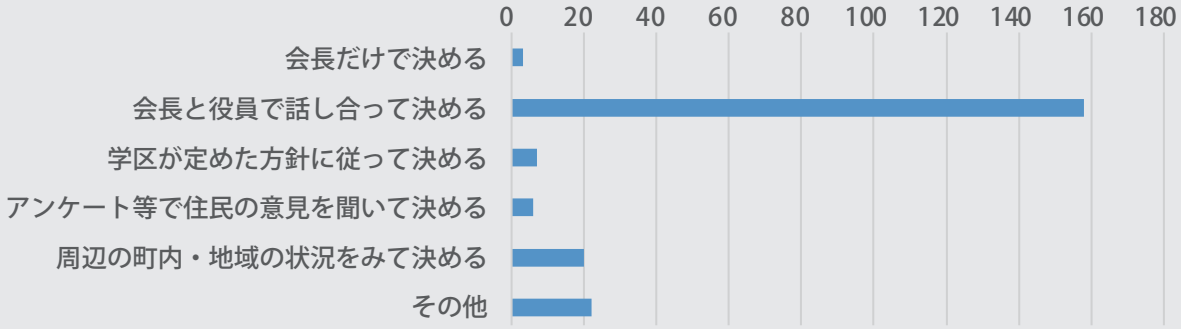
開催の日程を教えてください。



８月 24 日に近い土日（８月 19 日・20 日）での開催が９割を占める。

＊2 日開催の場合，お参りが行わる日を開催日としてカウントしている。

地蔵盆開催の可否の決定はどのようにして行われましたか（複数回答可）。

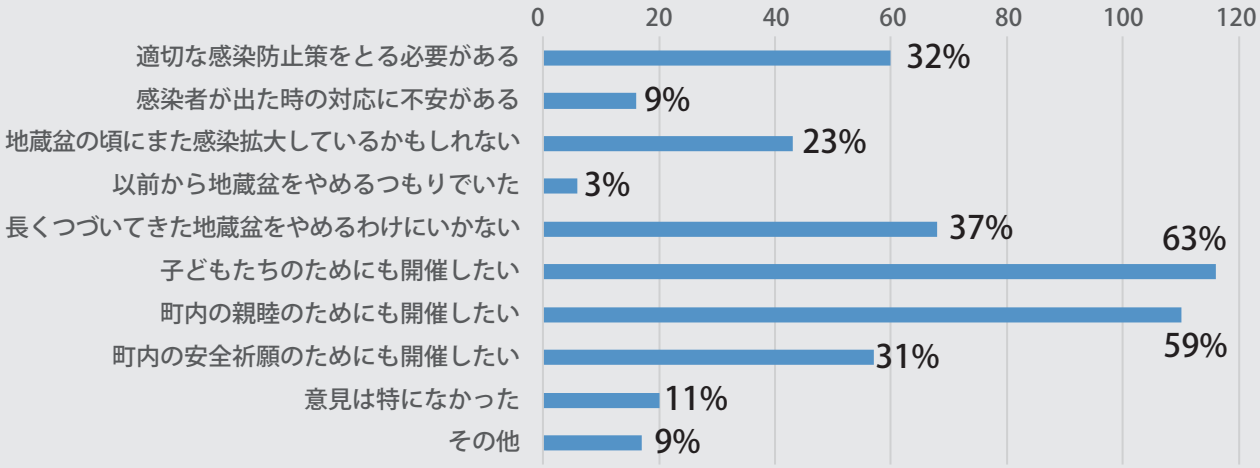


「その他」の内容

・役員が決まっていなかったので仮の世話役・役員と町内の人で決めた
・町内の北・南組で隔年で担当。担当組の組長が決める。飾りつけ，後片付けは全員で行う。
・町内三役と地蔵盆実行委員（子供会保護者）の協議で決める
・毎年８月 16 日と定め（五山送り火当日の朝９時）僧侶と敷地所有者とその親戚で催行。
・自治会がないので女性会や老人会で行った。
・町内全員で日を決めて会議をし，その場で全員の総意で決める。
・子供会の決定による

町内会・自治会の役員や地蔵盆の世話役が話し合って決める場合が多い。

開催の可否を決める際，町内で出されたご意見を教えてください（複数回答可）。



祠の置き場所が無い。毎年，お寺さんに行き読経してもらっている。お供え・お布施・前掛けをする。

お地蔵様の掃除，飾り付け，お膳，おけそく，果物等のお供えをする

町内会の７割が高齢者になりコミュニケーションが取れない方がコロナ禍で増えた。皆が楽しめる地蔵盆に変化させていく意味で開催した。

少し縮小した形で子どもたちが喜べる何かを提供したい

熱中症が心配

少し縮小した形で子どもたちが喜べる何かを提供したい。

お飾りが大変である

最近町内の子どもが増えたが，子ども同士のつながりが無い，親同士のつながりも無いため，将来の町内を担ってくれる若い世代のつながりを作ることが大事だと思い，縮小してでも地蔵盆をやる意義がある。

子供が少ないので中止する。

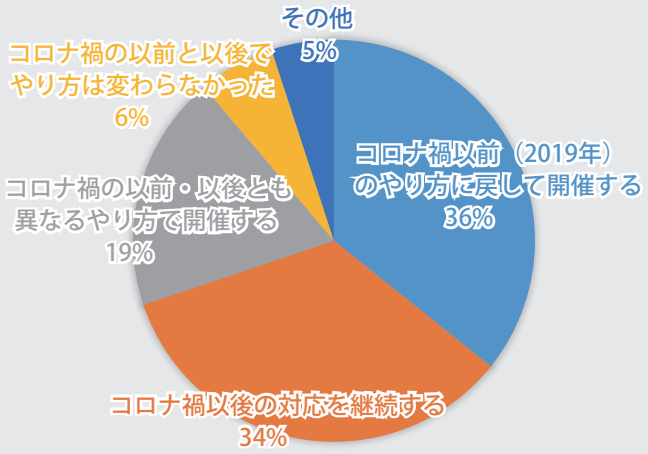
今後も続けていく為に記録を残していく

特に子供のいない家などは役員をしたくなかったり開催を望まない人もいるので，無理のないように続けていきたい。

コロナによるイベント中止が続き，前年度役員から行事の引き継ぎが混乱し，準備が間に合わなかった

地蔵盆の再開を望む声が大きいが，一方で，感染への不安が残っていること，地蔵盆の継承が困難となっていること，地蔵盆の意義を再確認する必要があること等が確認された。

今年の地蔵盆を開催する上での方針について教えてください（複数回答可）。



内容自体はコロナ禍以前と同じ事をしたが時間を短縮した

３年前位にお地蔵さんを守りしていたお家の建替えに伴い祠が撤去され，本体が最寄りの寺に移された。昨年からお寺の本堂にて数珠廻しとお参りをさせてもらっている。

配布する食べ物を個包装や市販おにぎりにする等，感染防止策をした

以前のやり方にできるだけ近づけたやり方で開催する。ただし懇親会は行わない。

基本的にはコロナ以前の内容に戻したが簡略化した部分はある

以前と同じように，でも少しコンパクトに。

コロナの影響があり，子供も居ないため，掃除と飾りつけのみとする

コロナ禍前よりも少し簡素化した（プログラムを２つ減らした）

子供がおらず高齢者が増加。準備が大変。

コロナ禍以前の内容に少しずつ戻して行きながら開催する

子供の人数が減ったので縮小して行った（2 日間を 1 日に短縮）

通常通り実施したが，終了後の足洗い（懇親会）は中止した

以前のやり方に戻す，コロナ禍の対応を継続する，いずれとも異なるやり方を模索する等，町内によって開催の方針は様々である。

今年の地蔵盆について話し合われたこと等，具体的な事柄があれば教えてください（自由記述）。

◯町内の状況にあわせて行事の内容や運営の方法を見直す

①福引とビンゴは復活し景品も年齢を問わないものとする,②子供の数が少ないのでスーパーボールすくいはやめる,③お供え（寄付）のない場合，福引券は配布しない,④足洗いの代わりに町内にできたホテルで懇親会を開く，といったことを決めた

コロナ禍以前の場所で開催し，終了後，納涼会を行う。行事の内容は役員の負荷を減らすため家庭用福引きをやめる。畳屋さんと酒屋さんが廃業したので，敷物と椅子で行い，飲料は担当者判断で仕入れることにした。

子供の数が減ってきているが，地蔵盆のあり方も考えつつ次世代に残していきたい。子供達の楽しみをすべて奪わないようお菓子の配り物，各家庭への配り物はする（2021年度はそれもストップしていて昨年度から配り物を再開しました)。

子供の人数が減少していることもあり外孫の参加を促した。

お下がりとして配布したときに利用しやすくし，また，高齢者の喉詰め防止等を考慮して，お供えを野菜から果物へ，紅白餅からお菓子に変更した。

お手伝いできるお父さん，お母さんの方々が少なくなっているので，作り物（焼きそば，焼き鳥等）をやめて，購入できる物（弁当等）に変更した。

①子ども達のお楽しみの内容,②役割分担 (お供え品等，誰が何を買いに行く・保管する，お地蔵さんの前掛けを誰が縫うか等),③各組のお子さん人数の再確認などについて確認・話し合いを行った。

３年間の中断による問題点の抽出，そうめん流しのプラスチック製筒の消毒，ボランティア学生サークルとの復活，高齢化役員の健康問題などについて話し合った。

◯子供も大人も楽しめるような工夫をする

町内の高齢者が増えたため，子供達と交流する機会をぜひもうけたいということになった。地蔵盆の内容も検討しなおすことにした。

子供には福引が大事なので目玉商品をいくつか揃えたい。当町内は夜に町内にあるホテルで懇親会もあります。そこではビンゴゲームもしますが，その賞品についても同様の意見があった。

子供たちが会場にとどまってくれることをする。町内全員が楽しく過ごせるようにする。子供のために開催する。

日程や開催規模，子ども向けのプログラムを何にするか，大人と子供の福引きの内容，大人・子供のおやつの内容などについて話しあった。

感染対策を考えつつも，子どもだけでは無く，大人も集まれるように工夫をする。

◯感染対策を引き続き行いながら実施する

感染防止策として飲食を伴う行事は控えることにした。例年は夜に町内親睦会（足洗）を行っていたが，今年はとりやめた。

①設営・撤収時に密にならないこと（町内の地蔵様4体を集合せず各祠で祀る），②暑さ対策を行うこと（夕刻からの読経とする）を確認した。

身体の触れ合いを極力防ぐ。飲み食いは室外で行う。

5類となったが感染が収まったわけではない為，保護者の監視の元，各自で消毒を行ってもらうことにした。

コロナ対策のため，例年行っていた町内の飲食店での足洗いはしない。

コロナが5類扱いになったとはいえ感染防止を重視した。規模は縮小し，夜の夏まつりは中止する。

飲食をどうするか？結果，かき氷だけ行うことになった。

コロナ対策のため役員は全員マスクをすることとし，飲食は全面禁止とした。

役員3名，世話役3名が集まって会議を行い，開催するかしないか話し合った。いまだコロナ感染症が増加する中で内容を検討し，「お飾りとお参りだけで行う」ことを条件として，4年ぶりに開催することを決定した。

人を集めての地蔵盆は行わずお寺の本堂にてお勤めをした。

地蔵盆終了後に行っていた飲酒や飲食を伴う足洗いを行わない（感染防止の為）

◯感染対策にくわえ熱中症対策に気を配りながら開催する

コロナだけでなく熱中症の不安もある。役員の負担軽減も考慮し，2時間で終わるように計画した。子供達の笑顔のため，また，京都の伝統を継承するために開催を決定しました。

熱中症予防を考えて例年は午前10時～午後3時で開催していたが，今年は1日目午後6時～9時，2日目午前10時～12時に変更した。

感染防止及び熱中症対策として，午前中で全ての行事が終わるようにした。

暑いので回向開始時間を例年より1時間でも早め9時開始とし，それに伴う準備の開始時間も早め，朝7時頃からとした。

コロナより，暑さ対策をどうするかについて話すことが多かった。今までは一日中お地蔵さんの前で遊んだりしていたが，今年はできるだけ簡素にして，イベントの合間は帰宅してもらうように促した。

①暑い時なので午前中だけにする，②遊びコーナーを実施する（スーパーボールすくい，輪投げ，スマートボール）ことになった。

今年は例年よりも猛暑であり熱中症の危険もあるために簡素化した。お寺さんにお参りはしてもらい，子供にはお菓子，クオカードなどを渡すこととなった。

５月の地域祭（子供神輿巡行）の際は，感染症対策で消毒液配置して臨んだが，地蔵盆では熱中症対策に重点を絞った。

今年は特に暑かったので出来るだけ部屋の中に入るようすすめた。ヨーヨー釣り，ボール釣り等の時には外にでるが，部屋は冷房つき，今年はプールをしなかった。

感染拡大の心配に併せ熱中症対策が十分でない，設営にあたる役員の高齢化で健康面が心配であるといった意見が出た。

コロナ，熱中症を考慮して会場に長居しなくてもよいような内容とした（ビンゴ大会を取りやめる）。フルスペックではなく子供を対象にした取り組みを行う。

今年はかなり暑いのでコロナよりすごく気になりました。前日に道具を運んでおき，当日の準備は朝８時開始とした。テントは立てたがゴザは引かず３時には終了した。子供の福引はしたが大人は商品券の配布で済ませた。

◯周辺の状況や住民の意見を踏まえて検討する

コロナ禍で町内の交流が減り，転入者のお顔も分からない。町内の食事会の開催を要望する声があったので，企画した。

学区の定例会で確認したところ，周辺の自治会では縮小して実施するという意見が多かった。縮小して実施するが楽しい行事は残したい。コロナ感染，熱中症に留意する。子供たちにはお菓子袋，大人たちには家庭用品をビンゴゲームで提供する。お寺さんの読経，お供え品の全会員への配布はする。最低限やることを確認した。

町内住民の親族（子供さん）の地蔵盆への参加を以前のように認めるかどうか話し合った結果，みとめることになった。

子どもたちがするゲームは午後に学区の元小学校で行われる夏祭りにまかせて町内ではお菓子とジュースを配る程度にとどめておこうという意見が多かった。福引や輪なげなどは景品購入に手間と費用がかかるということで否決された。

昨年度までは縮小しての開催だったが，今年は元通りにしましょうということになり，特に反対はなかった。ただ，物価高のため，予算が心配ではありました。

①コロナ禍以前の通りに行う，②お経（数珠まわし含む）のみ，③開催しない，の３択でアンケートをとった。その結果，多数で②になったが，数珠まわしは多数の人が手に触れるものなのでやめたいと意見があり，お経のみになった。

①コロナ禍前のような地蔵盆を復活させる。②地蔵盆行事を見直し，行事の規模・内容を縮小し存続する。③地蔵盆をやめ，その備品を片付ける，の３択による町内全員アンケートを実施した。その結果，②が 67% を占めた。この結果，今年の地蔵盆をどうのように実施するか具体案を町内役員会で決めた。

新型コロナ感染症が５類に移行したことにより世の中の流れがすべて変わったと会議に出席した人たちが判断した。

◯開催の可否をめぐる葛藤

地蔵盆の頃にまた感染拡大しているかもしれない。食事・足洗いは中止する。

３年以上続けて中止だったので今年こそは子供達のために開催したいと思いましたが，内容については悩みました。スイカ割りをしたのですが直前までどうしようか迷いました。その場では食べず，持ち帰りにしました。

自治会役員はコロナが発生したときの責任をとれないとの一方的な意見で開催しないということでしたが，子供たちや一人暮らしのお年寄りのことを考えて小規模でも女性会と老人会で行うことになった。

地域（町内会）の伝統ある行事を絶やすわけにはいかないという思いは皆に共通した意見であり，親睦会も大切である。しかし，コロナ対策も十分に対応しなければならないという意見もあった。

町内三役と子供会役員５名で行い，開催する方向となったが，飲食の有無が問題となった。子供の飲み物はペットボトルを用意し，お菓子も個包装を用意するが食事はなしとする。住職様の説法の後，子供向けの出し物は子供会役員の方に考えてもらう。町内会としては大人の接待用飲食の用意をする。

◯開催の資金や確保の方法について再検討した

お昼ごはんを皆で集まってとらないこととし，ビンゴが長くなるのでやめた。イベントを少なくするかわりにお供えをいただかずに開催することにした。

組長の方々との役割分担を行い，従来の形に戻すことにした。前年度は，町内の三役（会長，副会長，会計）で運営。あまり負担にならない子供向けゲームを，景品や配布物の金額を少しだけあげて実施した。奉加金の最低金額の目安を明示して運営資金の確保に努めた。

町内会費を使用せず，お供えのみで運営していたが，町内会費の使用を是として運営することとした。

任意の御供金は廃止し，会費制とした。引っ越して来られた方にも分かり易くし，独居者の負担軽減と全世帯の負担の平等化を図るためである。

①飲食はなしにする，②暑さ対策のため時間短縮，行事簡略にする，③お布施はなしにする，④お供えは自由にする，ということを決めた。

◯地蔵盆に使う道具の確認・新調を行った

コロナ禍で３年程，行事が行われなかったため，町内の貯金があった。そのため，以前より破れ等ごまかしつつ使っていた大提灯（４個）を新調するか否かについての話し合いをした。結果，大提灯を新調する事となった。

やらなかった３年のあいだにゴザやテントなどの物品に破損やカビなどが生じていた。スイカやアイスクリームは保管や処理が大変なので，手頃なものに変える。子供のお昼も簡単にする，おためも事前に準備するなど，簡単にできることはしつつ，子供が喜ぶことはなるべく減らさない。

◯コロナ禍の経験を経て内容の確認・見直しを行った

①コロナ以前のプログラムや時間を元に戻すか,②コロナが終わったわけではないので密をどのように避けるか,③予算をどう使うか，子供たちの参加の人数を先に読む，おやつの数をどうするか,④コロナ禍で中断していたので設営の方法（お地蔵様のおかざり等）を思い出す必要がある,ということを話し合った。

子供達のためにもできるだけ以前と同じ内容で行う。おやつ,ゲーム,おもちゃの福引等。ただし，ジュース等の飲み物は紙カップで分けるのではなく１人ずつペットボトルで渡す。夜の大人のビール・おつまみは無しにして缶ビールは来てくれた人に配って分ける。

飲食を行わずお酒の提供も行わない。マックカードを配布。2L の飲料水を持って帰っていただく。行わないことの代わりのことを工夫する。

子供の行事はそのままで大人の足洗（BBQ）はなくした。

３年間僧侶のお参りを役員だけで行ってきた。コロナも一段落してきそうなので少しでも前のような形に戻して行いたい。しかし以前行っていたビアパーティは無理なので中止する。

昨年度はお寺様も数珠回しもなしでした。今年も町内に子供がおらずコロナの関係もあり数珠回しはなし，お寺様の読経のみで終了した。飾りは随分簡素になりました。懇親会をやめて近くの仕出し屋さんのお弁当になりました。

地蔵盆の継続の是非，開催場所の確保，地蔵盆の道具の保管場所の確保について話しあった。コロナ禍で３年間実施できなかった間に町内の少子化，高齢化が進み慣例が崩れたため，新たな再出発になった。

今年は昨年と同様，お飾りもしない事が話し合いで決まりました。

お参りの時間帯のみ人が集まることとする。子どもたちに配るお菓子は役員がそれぞれの自宅へ届ける。

コロナ禍であり昨年は僧侶の読経と子供への菓子配り，各家庭への商品券配布を行った。今年も昨年に準じて同様の行事を行った。

昼食，アルコール類の提供について話し合った

少子化，高齢化が著しく，コロナ禍前のような取り組みは困難となった。今年度以降は御堂の前で読経のみを行うこととした。

３年間，コロナで中止と言いつつもお寺さんのお参りとお菓子詰め合わせ，図書カードを配布はありました。

◯引き継ぎや継承が困難になっている

私たちの町内のお地蔵さんは石仏ではなく厨子に入っていて，町会長保管となっています。コロナ禍の 2021～22 年は町会長宅でお寺さんに来ていただき役員のみのお参りでした。2023 年はコロナ禍以前に戻したいという意見が多かったです。お飾り等は以前と同じにしても参加する人たち，子供たちの人数はまったくわからない。同じように実施しても以前と同じことはできないと感じています。

コロナ渦の間にやり方等を忘れてしまっていることがたくさんあり，それを思い出す為に時間がかかるということが懸念された。

これまで地蔵盆をどのように実施されてきたのかほとんど資料がなく，かろうじて写真が残っていた。また，地蔵盆を担ってきた住民が高齢化しており，お手伝いが難しい。どのようにして地蔵盆を復活していったらいいのかわからない。町内会の世帯数が少なくなり，どうしたらいいかわからない。

自治会会員の大幅な減少。会員世帯の 3/4 が高齢世帯なこともあり，夏の酷暑で役員の体調不良もあり，今年も中止の方向となった。ここ 2～3 年のコロナによる催事中止により役員間の年度ごとの引き継ぎがスムーズにゆかず，十分な準備時間を確保できなかったため中止となった。

子供の人数が減って子供の部はなかなかできない。

これまで使っていた会場が使えなくなったので場所をさがすのが大変だった。

参加者が少ないのではないか，と危惧する意見があった。

子供が少なく，町内を脱会する人が多くて困っている

◯運営の負担感が増している

お地蔵さんをどうするか。お地蔵さんを移動するのに人手（若い力のある人）がいないので，やり方をどうするか問題となった。とりあえず今年は知人の方にお願いしたが，今後の課題となっています。

コロナ禍以前より始まった町内の子供たちの減少，高齢の方の増加。行事をどのようにするか決まらないし，高齢者が多く準備などの負担が大きい。お地蔵様の掃除，飾りつけで精一杯でした。

コロナ禍のこともありますが世話役（役員）の高齢化とともに同じメンバーでの世話役が精神的にも肉体的にも負担となってきている。

会長，副会長共に仕事をしていて正直忙しく，コロナの感染者も増えてきているため地蔵盆の運営が大変であった。

学校の予定などもあり子供の参加が少なく，また，町内の共同住宅の住民が協力的でないため，困っている。

こどもがおらず，高齢者が増加している。現役を離れた男の人が居られるが近隣や町内の事にまったく関心が無い。

マンション建設のため住民は増えるけど接点がなくこれから先が心配です。

◯再開への意欲を確認した

昨年，一昨年とコロナ禍で形を変えながらも続けてきた地蔵盆を出来るだけこれまで続けてきた形態を保ちながら行っていきたい。例えば，屋内での開催，ふごおろしの復活など。

コミュニティ強化を目的として，まずは，例年通りの開催を目指す！

今年は４年ぶりの地蔵盆復活を目標にする。

子どもや孫を持った親や祖父母が町内会長，役員をしており，子どもや孫たちに地蔵盆の体験をさせてやりたいという思いが開催に繋がった。

町内会長の地蔵盆を絶やしてはいけないという熱い思いを感じた

来年はすべて通常通り実施する予定である。

コロナで３年間，地蔵盆の行事を中止していた。子供たちが多い（小学生・幼児 37 名，中学生９名）ので，今年は行事を行うことに決めました。

７月の組長会議では，従前と同様に開催する方向で準備すると決定した。ただしコロナの状況が悪化した場合は，開催を取りやめることも視野に入れていれる。

足洗の実施について話し合い，開催する事となった。

町内の伝統行事（今年 86 回目）であるのでぜひ開催しよう，子供たちに楽しい思い出を作ってあげたいという意見があった。

①新型コロナウイルス感染症の５類移行により行動規制が緩和されたこと，②感染症対策（消毒液等）をとりながら実施すること，③子供たちのためにも実施したいという強い思い。以上により，４年ぶりに開催することとなった

◯若い世代を中心に準備・企画するようにした

子供達に何が出来るか意見を出し合った。４年ぶりの通常開催となることもあり，今まで中心になって尽力して頂いた方たちからの代替わりを考え，若手中心で準備することになった。

昨年，若い世代を中心とした地蔵盆（子どもたちの遊び企画，子どもたちへの福引や景品の買出し，地蔵盆の飾り付けを省略して開催した）が，子どもたちと若い世代の親に大好評だった。そのため，今年も昨年と同じような取り組みとし，子どもをもつ若い世代を中心とした地蔵盆をすることになった。

子ども企画について，保護者で話し合った。

お飾りは前と同じようにしたい，子どもたちが町内で増えてきたので開催して楽しませたい，という意見があった。今回の子どもたちのおやつは，若いお母さんたちに自分たちの欲しいものを選んでもらう。

◯負担を軽減する工夫や行事の簡略化を行った

コロナ前は２日間でしたが１日に変更しました。準備，片付けも大変なため次の日はお休みしていただき，ゆっくりしてから仕事に行ってもらいたい。

地蔵盆のあり方を見直した結果，簡略化し，過度な提供は行わないことにした。参加者のメール登録により名簿を電子化した。

数珠回しはしない。時間短縮につとめる。

より簡略化した開催方法で実施する

手作りの飲食品は取りやめにした。

とりあえず数珠回しとお参りだけにして，夕方に近くのお店で親睦を兼ねてご飯を食べに行く事にした。

◯地蔵盆の意義についての話し合い・再確認を行った

コロナ禍以前のような地蔵盆に戻すことは今後も難しいが，地蔵盆を開催しないという意見は出ませんでした。

子どもたちのためにも長くつづいてきた地蔵盆をやめるべきではないという意見があった。

子供のために少しでも良い思い出を作ってやりたい。地蔵盆は京都の文化であり，子供の成長，町内の親睦と大変重要な年一度の行事だと思います。

世帯数が少ないため，盛大には出来ない事，交通安全のお地蔵様であることを確認し，開催することとなった。

少子化・高齢化が進み，コロナ禍で簡略化されつつあったが，地蔵盆をきっかけにして町内の子供達の親睦や高齢の方々の親睦等があれば良いのではと判断し開催することとなった。

少子化にともない子供の数が少なくなっているが，子供たちの記憶に残る楽しい催しを加えて伝統行事を継続したいと考えて企画した。

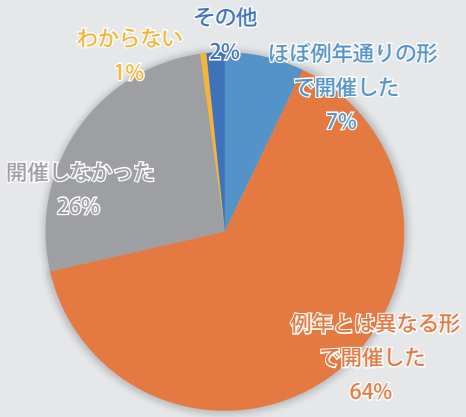
他町内では子供の数が減っているが若い世帯の転入者が一定数あるため，ここ数年は子供が楽しめるよう地蔵盆を積極的にやりたいと考えています。

４年ぶりに町内の親睦をはかる絶好の機会とすることを確認した。

コロナ禍で外へ出づらくなった方や新しく転入してこられた方がいるため，町内会の親睦を兼ねて地蔵盆を実施。衛生面には最大限に注意して実施した。

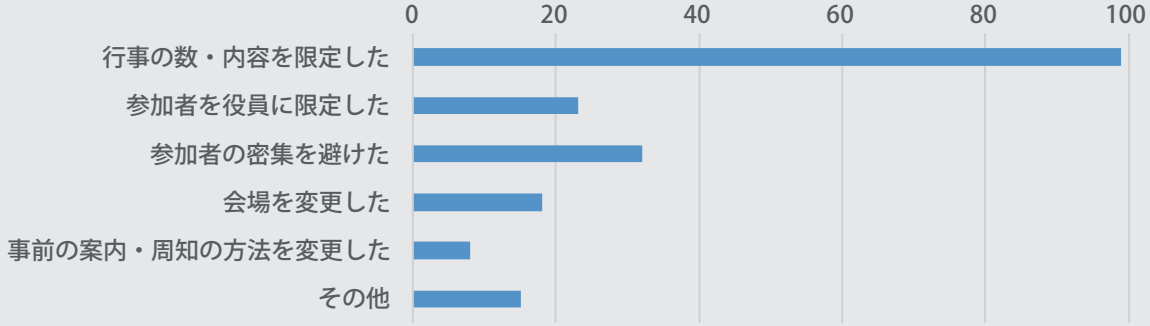
「今年の地蔵盆に向けて」というテーマで町内役員組長会議を行いました。少子化，猛暑，コロナ禍の影響で以前のようには出来ませんが，先人から脈々と受け継がれてきた京都無形文化遺産で京の夏の風物詩である地蔵盆を簡略化してでも続けて行きたい，ということになりました！！

昨年，地蔵盆は開催されましたか？ （n=185）



「例年とは異なる形で開催した」が６割強,「開催しなかった」が３割弱であった。

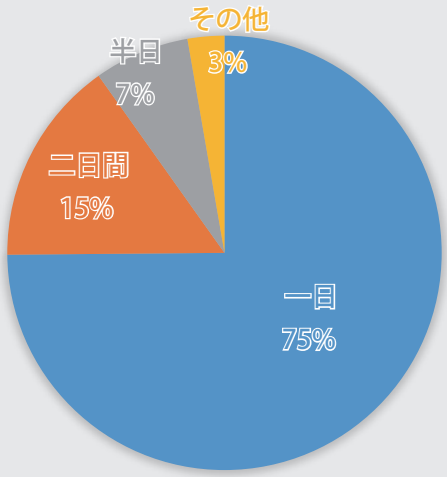
「例年とは異なる内容・方法であるが開催した」場合，具体的にどのような点が異なりましたか？（複数回答可）



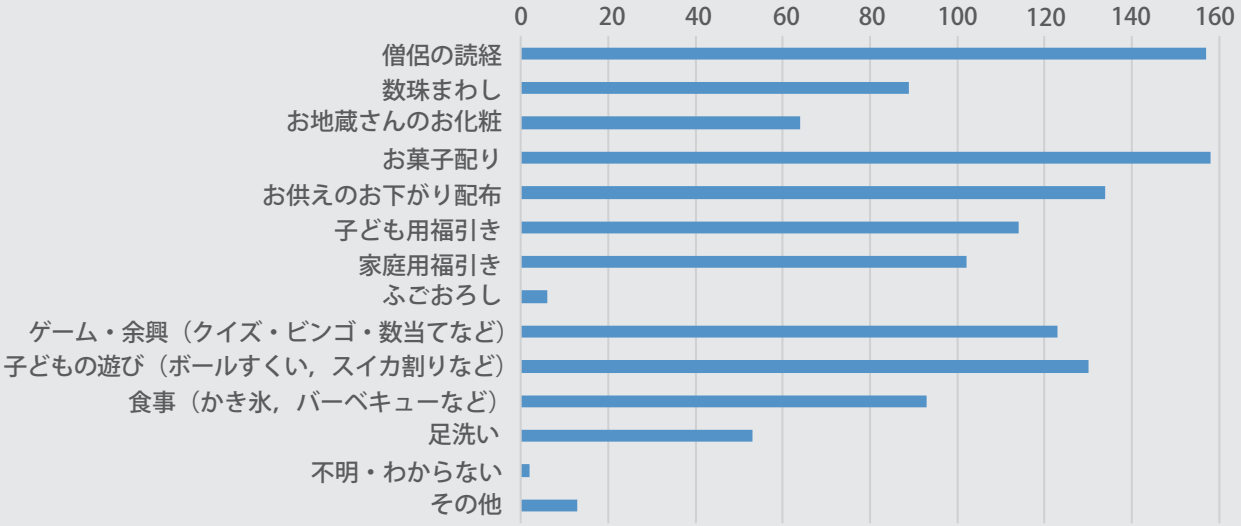
- 午前中だけの開催，数珠回しは行わない
- 懇親会は食料を個別にパックに入れ，今までのようにお箸ではつつかない（コロナ対策）
- 参加者を昼は子供，夜は女性会と老人会のみとした
- コロナ後３年間（2020～2022年）はお菓子パックの配布のみを行い，地蔵盆は開催せず。
- 子供たちへのお菓子の配布のみ
- 時間を一日から午前中に変更した。
- お地蔵さんの所で読経，子供への商品券の配布
- ①お地蔵さんの飾り付けをやめた,②いつもお借りしている家でなく通り抜け路地の野外で開催した,③夜の行事として子ども花火大会をした。
- 長年の使用により劣化していた提灯を新調して夜間に点灯した。般若心経の CD を流して時間内に自由にお参りしてもらう様にした。
- 会費の見直し，意味を検討した。

昨年は開催する場合も行事を簡略化する，参加者を限定する，
集まらずに配りものだけをする等，密を避ける形で行った。

例年の地蔵盆についてお尋ねします。コロナ前は何日間開催されましたか？(n=185)



コロナ前（2019 年）の地蔵盆で実施された行事について教えてください（複数回答可）

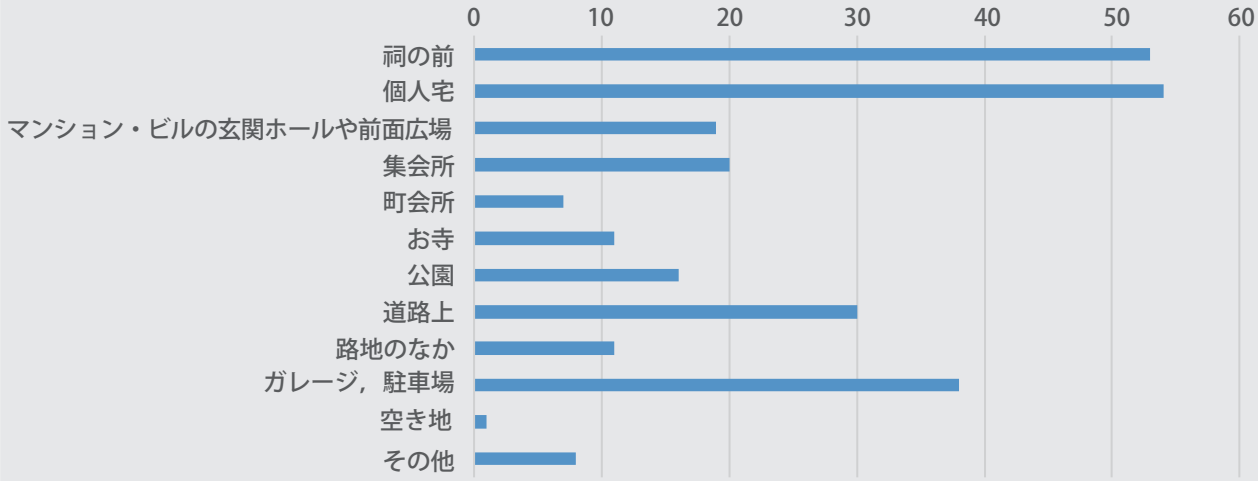


「その他」の内容

- 手品イベント
- 防災訓練（上京消防署から来てもらう）
- 当てもん，駄菓子
- そうめん流し
- 石山寺の御札（大黒天）を配布
- バルーンアート，マジックショー
- 納涼会
- 2 日間の頃まで懇親会として夜に集まっていました。
- 輪投げ，くじ，あてもの，たこせん
- 盆踊り，マイムマイム，ブラスバンド（樫原中に依頼）
- 合唱・老若男女
- 公園での交通安全教室
- 少年補導学生班によるアトラクション

読経のほか，お菓子の配布，お供えのお下がり配布は定番の行事。
福引き，ゲーム・余興，子どもの遊び，数珠まわし，お地蔵さんのお化粧，食事も多い。
その他，各町内で特色ある行事も工夫されている。

コロナ前（2019 年）の地蔵盆で使用された場所を教えてください（複数回答可）。



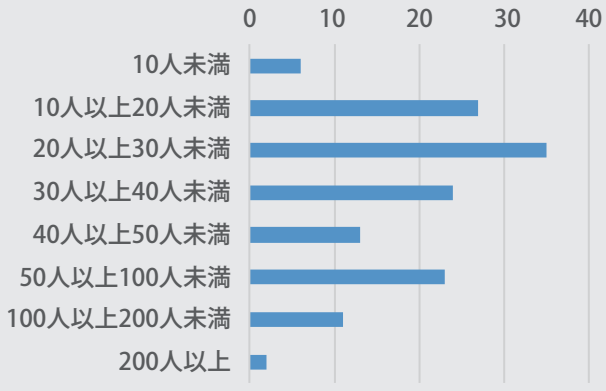
「その他」の内容

- マンションの中庭
- 町内にある施設
- お地蔵さんがある家の庭
- 公会堂
- 地蔵堂
- 神社
- 保育園の保育室
- その年の町内会長の家の前
- 内裏跡広場
- 町内にあるホテルの多目的スペース

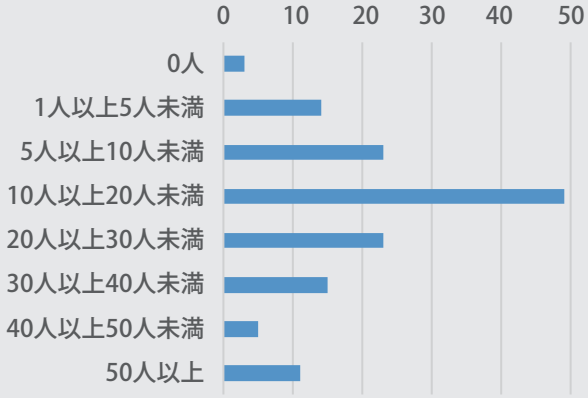
祠の前，個人宅，ガレージ・駐車場，道路上，集会所，お寺等，様々な場所を使用。

コロナ前（2019 年）の地蔵盆に参加された方の人数を教えてください。

大人



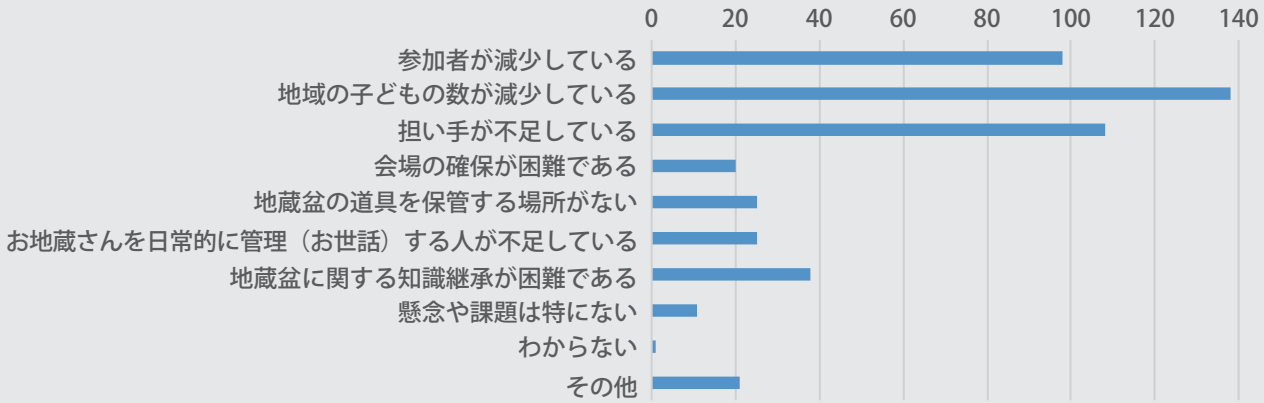
子供（中学生未満）



	大人	子供
平均	39.9 人	18.9 人
最大	300 人	100 人
最小	5 人	0 人

地蔵盆の参加人数は町によって異なり，規模にはかなりの幅がある。

地蔵盆を今度も続けていく上での懸念があれば教えてください（複数回答可）。



「その他」の内容

・町内に子供は一定数いるが地蔵盆への参加が少ない
・住民が高齢化しており若い方の継承者がいないのが心配である
・病院建設等で住居（一軒家）が減少しており住民が減少している。
・役員をやりたくない為，町内の住民が自治会に加入しない。非会員の子供も参加したいだろうと思い，募ると参加者もいた。非会員への案内等，役員の負担が増え，課題は残る。
・それなりに継続している。まだお世話する人もいます。
・役員の減少と高齢化。熱中症対策も課題。
・お盆の時期に実家に帰省される方が多くなっている。
・組長（会長含む）の方々が多く準備に協力して頂いております。
・町内会が北部，南部にわかれているが地蔵さんが安置してある北部に人的，費用的負担がかかっており不満がある。その折り合いをどうつけるか。
・コロナ禍で行事の簡素化が多く，今後，以前のように多様な内容で行事が行えるか不安である。
・近くのマンションの子供たちに来てもらっている
・子供の成育，町内の安全祈願のため地蔵盆は必要である。
・子どもがいない。高齢者が増加。お供え(寄付)が減り，お地蔵様の建物が痛んできたらどうするか等が心配。
・世話人の負担が大き過ぎるため，仕事の分担が必要である。
・地蔵盆関連の物品保管が町内会長自宅のため，会長になった人は少なくとも畳１畳分のスペースを物品保管に使うことになっているので負担がかかっている。
・コロナで３年間行事がなかったことや，高齢世帯や子育て世帯は役員をすることに負担を感じていることから，町内会を退会する人もいる。
・コロナ禍での中断とマンパワー不足もあり，地蔵盆開催に関わった人が少なくなってきていて，実際やる時にやり方が分からなかったり，聞ける人がほとんど居なかったりします。
・お供えが減ってきており，予算オーバーする。
・地蔵が町内に居ないのに借りに行ってまでする必要があるのかという意見がある
・町内で今まで段々減ってきていた子どもが，ここ数年また増えてきた。この町内で育って，子供の頃に地蔵盆を体験した若い父母が３名おられたことも良かった。

子供の数の減少，担い手の不足，参加者の減少の他，個別の事情や悩みを抱える。

地蔵盆を継続する，盛り上げる上で行っている工夫があれば教えてください

◯子供も大人も興味を持てるように工夫をする

これまで継承されて来たことを絶やさず行っていくことを心がけている。その為にも全員参加できること，くじびきやお下がり配布など町内の方にくまなく配布できるよう心がけている。

地蔵盆に関する知識を住民にもっと広めて子供達とともに高齢者もより多く参加してもらうようにする。子供達だけでなく高齢者も興味がわく行事にしたい。特に一人住まいの高齢者には参加してほしい。

子供は少なくても大人が集まり，食事などして，今ではほとんど無くなったコミュニティの場にしたい。

子供が少なく，年配者が多いため，大人も楽しめるようにしている。

◯日頃からの交流，マンション住民や若い世代への声掛けを行う

転入者（特に京都市外からの方）には，極力声をかけて参加してもらうようにしている。

地域の交流を深めることを心がけている

新しいマンションにも声をかけたが・・・？

地域の若い世代（子育て世代）の方に積極的に声をかけて自治会活動への理解と参加を促す

町内の親睦を深めるため，できるだけ気軽に沢山の子供たち（大人も含めて）に参加を呼びかけている。

非自治会員へも案内している（参加者あり）。日頃，お地蔵様に手をあわせることもなくなったので，行事から帰る際にチケットにメッセージを書いてもらい，手を合わせチケットを回収するという工夫した。（地蔵盆終了後，メッセージカードを町内の掲示板にはっている）とる。

子育て世帯に対して自治会入会の声かけをしている。

日頃から住民とのコミュニケーションを密にとる等。

お地蔵さんのお飾りの方法をわかりやすくまとめて若い方に伝える。マンションの方にも町内会に入って頂くようお声がけをする。

新しく町内に来られた方にも自治会の役割を知っていただく。地域の要望をあげていく。

マンション住人に参加の呼びかけをしている

住民が集まる機会を多く持ち意思の疎通をはかる。（食事会，バス旅行等）

地蔵盆に限らず昔からの行事（祭，御火焚祭,）や敬老の日の祝い，地域の行事への参加を推進している

◯参加のハードルをなるべくさげる

当方で催行の地蔵盆は天道如来であり本来 28 日が本来の祭日ですが 2005 年以降は僧侶と相談のうえ８月１６日（毎年同月同日）（巷がお盆休暇中)に催行することに至る。ちなみにそれまでは，(過去の記録から）20 日～26 日の間の土曜日の実施が多かったです。

例年は子ども 1 人あたり参加費 1000 円をとっていたが，コロナ後お菓子配布しかできていなかったこともあり，又，地蔵盆参加に興味をもってもらうため，今年度は参加費無しで町内会加入家庭のお子さんは全員参加可能にしました。27 人中，26 人が参加しました。

◯役員・世話役の負担を軽くする工夫をする

各班長さんの負担を軽減するためにメールを活用している

無理なく続ける

必要ないと判断した準備や作業を割愛するなどして世話役の負担を出来るだけ減らすことで「行事は大変」という意識を低くしてもらおうと心がけている。

世話役（愛護委員，保護者の母親）の負担軽減。2019年以前は粗供養として京都市のごみ袋（300円程度）を前世帯に配布したが粗供養の袋詰，運搬に労力がかかるので今年は500円のQUOカードに変更した。

できるだけ役員や世話役の方の負担を減らすよう考えている

特定の役員に仕事が集中しないようにできるだけ分担する。

行事内容を再確認し世話人の負担を減らし，行事・活動に興味ある方の掘り出しのため，PR活動ができればと思っております。

世話役の負担を減らすよう心掛けている。熱中症に気を付けて午前中の短時間で終えるようにしている。

少子高齢化が町内でも影響しており，コロナ前に比べてできるだけ世話役の負担を減らすようにしている。

◯行事を簡略化・簡素化している

プログラムを少し軽くして，少ない人数で和やかに楽しむことができました。

行事を簡略化して役員の負担を軽減しています。

基本をしっかり，余興を控える

行事を読経と数珠回しに限定して縮小して実施

行事の内容を簡素化。偶然であったがお地蔵さんが寺に安置されたことで祭壇を組む必要が無くなり楽になった。

僧侶の読経およびお地蔵様を室内に移動させて最小限の開催

各個人の負担を減らすために時間を短縮しています。

大変なことはできれば少なくする，時間を少し短くする

◯感染症対策，熱中症対策

コロナ感染防止のため，お菓子は会場ではあけず，帰宅してから開封した。

本年度はコロナ感染も減少しているがまだまだ感染者の増加の移行である。大黒天祭りはお飾りとお参りだけで開催することに決定。

日中暑すぎるので午前中，短時間で一旦解散し夜に再集合している。

暑さ対策のため，時間を短縮するなど，開催の工夫をしている。

◯役員・世話役以外の住民等にも協力してもらう

今いる住民で協力して行っているが，将来的にマンションの住民の方に声をかけて少しでも参加してもらいたいと考えています。

町内役員以外に神社関係の役員他の協力や準備のお手伝い等のサポートあり。回覧板にて地蔵盆開催のお知らせをまわす。

回覧板にテント設営やその他手伝いを依頼したことで過去の経験者が手伝いや指導に来てくださった

組によっては高齢化して役員がすぐにまわってくる。若い人達は協力的で助かります。高齢者である自分（71 歳）には会長はつらかったです。

おじさん塾のメンバーが手伝っている

自治会には老人会，子供会，イベント衆の組織があり，世代を超えて参加協力しています。世話役の負担は当然ありますが，相互の思いやり，助け合い，声掛け，自由意見の交換が大切だと思います。

比較的若い世代の方々にお手伝いに参加してもらう，役割分担してもらう。パソコンや携帯電話の活用。

町内会親睦ため皆が協力していた

マンションの住民にも声をかけて手伝ってもらう。

交通安全女性の会の方に安全についてお話してもらう

準備の段階から，できるだけたくさんの町民に出てきてもらう。トラブルをおこさず，楽しくやることに徹する。

できれば，かつてさかんに行われていた，学区少年補導学生班によるアトラクションを復活したいが，メンバーが少なくなっている。

運営者の負担軽減を図るためボランティアの募集

◯町内全体の行事という意識を持ってもらう

昔からの習いでお地蔵さんは基本全員参加

毎年，町会長，町役員は交代する。その年の役員にすべてを委ねることが重要。町内の人たちもその年の役員の決定した行事に参加・協力を心がけ，支援する。

住民全体の行事として取り組む

町内役員全員で公園の草ぬき，清掃をする（当日までに）

当番が無理なく出来る範囲で町内住民が協力する。

世話役をつくって負担を押し付けるのではなく隣近所で手の空いている人にはたとえ短時間でも出てきてもらって全員参加で行事を乗り切るような体制が整いつつあるように思われます。

地蔵盆を開催する場合，町内住民が準備，かたづけを中心に協力し，町内全体で開催することを前提としている。

◯運営の体制を整える，世代交代を進める

従来は 10 時～12 時開催であったが今年の暑さを考え今後は夕方開催の案も出た。

コミュニティの活性化と町内会未加入者の加入促進。後継者づくり。

町内に世話役，主に男子の LINE グループ（約 13 人が参加）があり，連絡をとりあっている。

地蔵盆だけでなく地域のつながりを強めていくことがとても大切な時代になってきている。当町内では幸い昨年から居場所が開設され地蔵盆もそこで開設することによりテントの設置や暑さ・雨の対策がいらなくなり役員も喜んでいる。また，今年から夏休みに公園にてラジオ体操を実施し，地域の賑わいがでてきた。

継続をするぞと思う人達を集める／マンションの子供たちを誘う／若い人に手伝いをしてもらえる様な人間関係を心がける／お供え等の負担を少なくする

要介護以外の方に，３日単位でお地蔵さんの世話（ろうそく，線香，お花）をお願いしている。現在，10 世帯で回している。

マンションとの合同開催として復活し，今年はもう１棟のマンションに声を掛けている。

会場として使用する路地の所有者への使用許可のお願いをしている。

町内の行事だから役員中心に安心安全を心がける。

企画の規模や内容は保護者に任せ，無理はしない。

昨年，町内の地蔵委員４名の内，３名が 75 歳以上，１名が 40 歳代，この若い地蔵委員を中心に，子育て中の父母に集まってもらうのを高齢者がお膳立てをして，若い世代だけで福引の景品，遊びの計画などをやってもらったのが良かった。足洗いも７世帯の子育て中の親子のみの参加とし，日ごろ同じ町内に居ながらつながりがなかった若い世代の交流が深まり，今後の町内の担い手への確かな手ごたえが感じられたのが良かった。

世代交代への取り組み（役員に若い世代を引き入れること）

新しくこられた方が熱心にやっていただいた

◯行事の充実，住民の興味関心にあわせた内容とする

宗教的な伝統行事だけでなく地域の子供から出ていった若い世代の子供たち（外孫）も含め，楽しい夏の行事になるように変えていきたい。

自治会費の一部をつかってくじ引きをして皆さんに何かを持ち帰ってもらっている。幼児，子供会，家庭の福引を行っている。地蔵さん前で受付をして会館で福引。

これまで，子どもだけでは無く，大人も集まれる様な地蔵盆を考えてきましたが，高齢化に伴い大人が集まらない様になってきたので，大人向けのゲームをやめて，お供えのお下がりとして会員さんへ物を配る様にしました。

行事を見直す時期です。地蔵盆で必ずやること。時代に応じた行事とは。子供たちの興味は何か。世話役の熱中症リスクの軽減。11:30～15:00 は家の中にいる。

交通安全女性の会の方に安全についてお話してもらう

2022 年度は私が自治会長で，地蔵盆には思い入れがあった為，新たな催しや過去にあって無くなってしまった催しの復活等，先へ繋げる為に盛大に行いました。

◯地蔵盆が途絶えないようにしようという意識がある

交通安全のお地蔵様があるのでお参りだけはやめない様に役員の負担を減らしたい。

町内においても少子高齢化が著しく進展し，担い手である現役世代の方が少ない。従って将来的には地蔵盆の開催が困難になることは推測されるが，当分の間はやれる範囲でやるという方針である。

参加人数が少なくなっても子供の数が少なくなっても町内として地蔵盆をなんとか続けていきたいと思っています。

一旦取り止めれば，復活は難しくなるので，規模は縮小しても継続する。

町内会役員の負担を増大させることなく，持続可能な地蔵盆の開催を模索している。

子供のために頑張りたいと思います

できるかぎりの事はやって行きたい

古都京都で永らく続けられている伝統行事であるのでぜひ今後も絶えることなく続けていかなければならないと思っております。

町内会を維持する事が出来る様に努めている。

お地蔵さんは子供専属の仏様ではないので子供の有無に関係なく地域と町内の安全のため役員だけででもお参りは行うべき。

◯町内会費やお供えの集め方，お礼を工夫する

今まで半ば強制的に寄附をお願いしてきたが，今回は止め，町内会費から支出し，負担を無くした。引換券など煩雑を避けるため，品物がなくなれば「ごめんなさい」にした。

町内会費を収めてくれるマンションにはお礼のお下がり（のし付てぬぐい）な,腐らないものをご報告･お礼としてポストインする。

予算立ての際，寄附の見込みを作り，組長から住民にそれとなく伝える。

◯継続・継承のための工夫

町内の親睦及び次世代への知識継承に努めている

写真等で記録を残して次期役員に継承して行きたい

記録をつけ，高齢者の方が来やすいような工夫（涼しい場所でお菓子の用意など）等を行っている。

地蔵盆の歴史などの資料を地蔵盆の案内の時に，資料として町内会員全員に配っている。

毎年の申し送りにどんなことをしたかなど資料を残している。

◯運営の苦労，継承への不安

決して危機的ではないが，お世話する人が減っている。マンション住民の中にも積極的な方も居られるが，平均して無関心な方が多い。

毎年心配です。1 年間お預かりするのが困難になりました。

できるだけ多くの方の参加を望むもどうしたら良いのか。

今後，私の地域のお地蔵様は，昔お世話になって想い出深い高齢者も対象に重きを置いた地蔵盆に出来たらな～と思いますが，周囲から「敬老の日」があるじゃないかと苦情が出そうです。京都市民が他地域に流出し少子高齢化しており，新しく町内に来られた人達に参加協力を要請しています。以前から住んでおられる方のなかに非協力的な方もおられて難しい。お地蔵を守る役は，前の人が高齢で，選ばれたわけではない私が「仮」にしており，私も 80 歳で他の人に声がけしても「わからない，そんなの出来ない」の一点張りです。益々いろいろと難しいです。たすけて～。子供会の組織もコロナ前に無しになりました。

町内の組（1～4 組）の順番で行っていますが，組により片寄りがあり，実施が困難な組が出てきている。マンション住まいの方が遠慮されて出てこない。

役員も同様ですが 70 代以下の方の協力が減ってきている。昔は今の 70～90 代の人が若く，彼らが盛り上げてくれたが今の中高年は仕事があるのかすすんで参加してくれません。

◯少子化による負担の増加，継承の困難

子供が少ない。地蔵が居ないのに地蔵盆をする必要性が感じられないので，学区みんなで一度に行っても良いと思う

新しい人が入ってこないので子供が少なくなり暑い中，お年寄りも出てこないので，行事の内容が変わっていきます。今回は役員がほとんど女性でした。男手がないので道具も最小限にしました。

子供がいないので大人向けの地蔵盆に移行するしかないと思います。

小学生の数が減り，よって親の数が減り，世話役の方の負担が増してきている。世話役の範囲を広げ，また，行事内容も考えていかなければと思っています。

子供達の数が少なくなっていくので，あまりにも少ないのであればやめるかも？

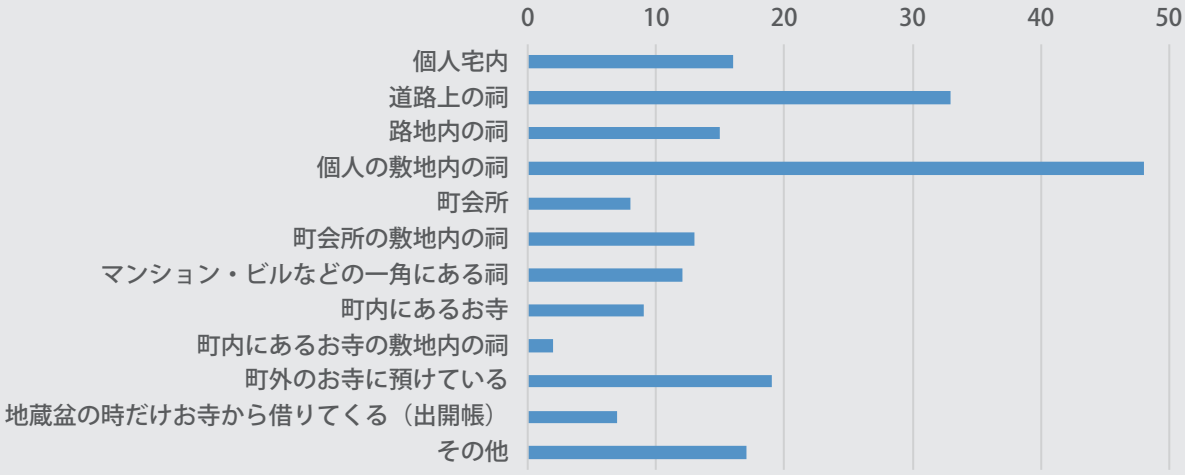
他地区のことを知りませんので比べられませんが当町内では毎年，町内会の会合も地蔵盆の会合も正しく集まられて話し合いもスムーズですが，子供の数が外孫さんも減って来ているのが懸念される一点です。またお借りできていたお家がガレージ（コインパーキング）になり，開催日に占拠できないのではとの意見が出ています。（営業妨害にあたる？）2 日間開催に戻すのは難しいと感じています。

地蔵盆を開催する上で私の町内は子供が減少している状態です。お地蔵さんは毎年行事を行いますしお参りもしてもらうつもりにはしています。しかし子供を対象にした昔のような，また，子供の多い地域とは同じ様にはできない。そのような現状の場合どうすればよいのか？

子どももいない。年一回の掃除，飾り付け。毎月 2 回お花のお供えと周囲の清掃のみ。

常住している戸数の減少と少子化のために現在は地蔵盆の維持も継承も難しくなっています。

お地蔵さんは普段，どこに安置されていますか？（複数回答可）

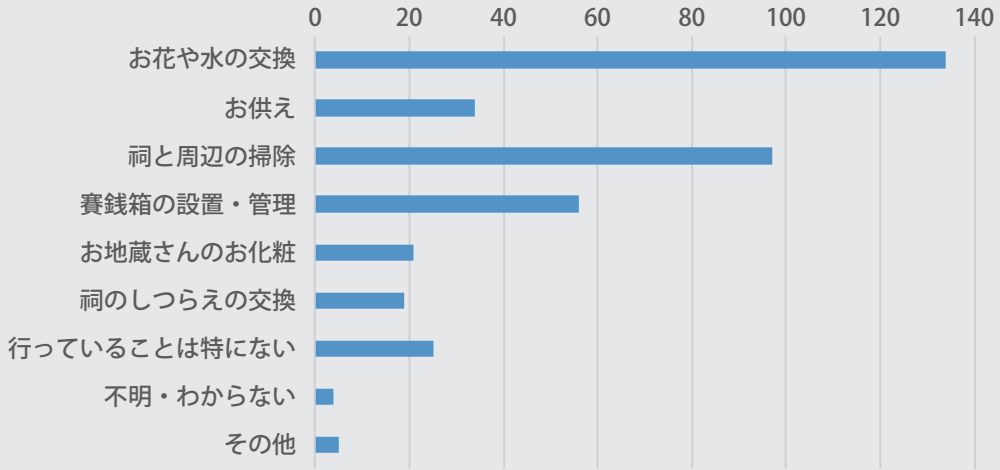


「その他」の内容

- 公園の一区画
- 解体されたお宅の跡地の中
- 公園内の祠
- 町内会長が保管
- お寺の角の祠に
- 関電鉄塔の敷地内
- 教育複合施設の敷地の一角
- 会社の敷地を借りて祠を設置
- 内裏跡前に六体地蔵

個人の敷地内の祠，道路上の祠をはじめ，町内外の様々な場所に安置されている。

お地蔵さんの管理（お世話）で行っていることを教えてください（複数回答可）。



「その他」の内容

- 老人会が管理している
- 町内で一週間単位の清掃
- お寺で管理して頂いている
- お寺に預け料と祈祷料をお支払いしている
- 賽銭箱はないがお金を置かれるので時折会計が回収する。
- 祠の修理の時のため積立金を準備している。
- お水代え，地蔵堂の清掃，数年前に生花を造花に変えました。一月毎に，バケツ，雑巾，地蔵堂の鍵が町内全世帯に（マンション以外）順番に回る

お花や水の交換，祠周辺の掃除など，日頃からお世話をしている。

町内のお地蔵さんの特徴や謂われなど，ご存じのことがあれば教えてください。

お地蔵さんが立っておられるので珍しいと聞いている。

お地蔵様の付近に京阪電車京津線が走っておりますが，昔は線路への柵もなく，踏切の遮断機もなく子供が電車にはねられた。私が知っている限りでは３人。それが止まった電車の下から無傷ではい出てきたのを覚えています。町内会では火事や犯罪にも遭遇したこともなく，昔から町内会を守っていただいているお地蔵さまと現在においても語り継がれております。

石像ですがお顔がとても美しいです。お化粧をしたりしませんが，いつまでも美しく鼻すじが通ったお地蔵様です。

「おまつ地蔵尊」が鎮座している。*「おまつ婆さん」に由来などは不明。

住宅地が開発された時からお地蔵は無かったです。それでも地蔵盆は毎年開催します。

世継地蔵大菩薩（厄除地蔵尊）として昭和６年８月１日当地において祀ることにしました。

NHK の京都放送局に珍しい地蔵と取材されたことがありました。

木像であり，いかにも古そうな像である

蛤御門の大火災の際，お地蔵さんのところで火が止まったので火止め地蔵（人目と書く）と言われていたと聞いています。

大日如来像は個人の漬け物石として使われているのを昔発見され，そのお宅で祀られたと聞いている。

町内に染殿地蔵という大きな地蔵さんがあります。お世話は農家組合の皆さまで毎月 24 日に集まり管理されている。

昔，京津電車が通っていた所にお地蔵様がある。それは事故が多かった所だったためとも言われ，また，古くは東海道沿いにあるので旅する人の安全祈願のために備えられていたのではという謂われを聞きました。

本町のお地蔵さんは石仏ではなく木造の地蔵尊である。日常はその年の町内会長が個人宅にて預かりお祀りしている。謂れは不詳。

祠の前の線香立ての石柱に文政年間に建てられたとある。

お地蔵さんの周辺住民の方が有志で管理して下さっています。お花は自治会からお金が出ます。

町内の個人宅で保管されていたのですが，高齢になり，家もなくなり，保管方法について町内で話し合い，町会長さん宅安置になりました。

約 60 年前に引っ越した時にあったのでお祀りしています。

昭和２年に祠と屋形を立て替えた覚書がある。ちなみに令和５年３月に屋形と祠を新設した。

物心ついた頃から敷地内に鎮座されていました。が特に年配者ながらも特徴や謂れは聞き及んでいません。当時は町内に子供が多く２日関に渡っての催行でしたがそれが１日となり，今では町内の参加者もなく身内での催行です。

現在地に遷座されて 104 年になるが，何年前に設置されたか不明（11 年前にお像の全面補修，３年前に祠の新築を行った）。

当地竹田は鳥羽院政の地で北面の武士の住まいがあった西行法師は元北面の武士で僧侶となり西行寺を建立（元の名前は佐藤義清）。西行寺跡に残された火消地蔵（木造）の前で行う。町内はすべて西行寺の檀家。

昭和８年に町内の方々がこの町内の子供はかわいそうとのことで地蔵を祀りはじめ，その時の資料は 85 年間残っていて歴史的に貴重である。

戦前からのお地蔵さん等で公園内に祠を設置し町内で管理している。

尼講（ご年配のご婦人）の方が読経し，数珠回しを行っていた。お地蔵さんは自分が生まれた時（S.35 年）からあり，できた経緯は不明。

1981 年に新規入居しました。次年の管理組合総会にて地蔵さんの設置が提案されたがニュータウンであるため設置には否定的な意見があったが，強行された。その後はマンションの敷地内に管理組合が祠を建てて地蔵さんを納めた。お世話は住人（特定）が行っている。地蔵さんは存在するが，当初から８月下旬に夏祭りとして主に子供対象とした催しを続けている。

長年の間に変化したのかもしれませんが，はっきりした菩薩像の形はしていないように思います。

大正６年，町内の人が壬生寺に受けに行ったとされ，町内にふさわしいお地蔵を選んだと言われている。

お地蔵さんのお参りするときの鈴緒に３色の布にその年に生まれた子供さんの名前を書いています

元々個人のお地蔵さんを町内のまんなかに移し，町内会のお地蔵さんとした。

昭和 51 年に自治会が発足し，52 年に近隣のお寺より地蔵尊を譲り受け，公園東南側に祠を設置しました。当時，設置委員会を作り，住民からアンケートを取り設置されたと記録が残っています。

１体は延命菩薩像で，木製と思われる。厨子には寛政九丁（1797 年）の銘あり。祠が賽銭泥棒に荒らされたことがあり，2000 年頃から町内会長宅で保管する。その結果祠が空き家になったため，新たに地蔵１体を新規購入した。

百余年前，地蔵尊の木簡が出土し，同地に祀る。但し後年地蔵像は作成されるも木簡の所在不明。

もう何十年前かわ分かりませんが当時の町内の地主さんが町内に設置されたとの事。

昭和４０年代頃，町内の道路工事で発見された

化野念仏寺から譲っていただいたと聞いている。

６体有るので動かす人がいなくなった。その昔立てる時，祠のある家の奥から出てきたと伝えられている。

戦時中，一町内が強制疎開になり住戸が半減したので隣町と合併した。そのため地蔵尊が２像ある。

正確には解りませんが，昭和初期からこちらの町内に居られる様です。御本体の詳しい構造は解らないのですが，表面は和紙で覆われています。卵形の胴に丸い頭が載っています。長年の傷みが激しく３年前の祠の移設の時に文化財修復士の修美さんに直して頂きました。

昔洪水があった後，鴨川に人形のようにみえる石が流れ着いたのを町内の方が見つけて，その石をお地蔵さんとして奉ったと聞きました。

彩色の美しいお地蔵さまです

２体の内１体は，昔鴨川が増水した時に上流より流れ付いたと聞いています。

戦後，２ケ町が合併したため六体さん。ご本尊さんとして２箇所でお祀りしてきた。

そもそも町内に地蔵はなかったので，上徳寺から掛け軸の地蔵を借りるようになったらしい。

この町内に 45 年前より来た時からありました。

お寺か一般の家かは不明だが，土壁の中から出てきたと聞いたことがある。

厨子は町内の有志の寄贈によるが，更に厨子自体を入れる宮殿（厨子）もあったが，戦後寄託先で処分されている。

地蔵菩薩像, 大日如来像は別々に祀られて, 管理, 祭りも別々の組織としてされていた。（参加者は重複される方もいた）

地域の地蔵盆について，お考えやお気づきの点など（自由記述）

地蔵盆の知識・関心が薄れていく中，いかに継続して行くか，大きな課題です。地域内の子供の数が減少し，高齢者が増え，特に一人住まいの高齢者が増えていく一方です。地蔵盆等の行事を通じ，子供達と高齢者の交流が深まれば何よりです。何よりもこのような機会をなくさない様，日々努力していきたいです。

若い親からのお供え（寄附）が減っている一方，町内会費の支払いを拒否するも地蔵盆には顔を出し，ずっと話し続ける高齢者が居て，正直，運営をどうするべきか悩んでいる。

町内の高齢化及び子供の人数の減少でいつまで出来るか不安です。

いつも習い事などで外遊びが減ってきた高学年の子も久しぶりに集うことでまた仲良くなる機会になって良かった。また，町内の高齢者の健康確認，お母さん同士のコミュニケーションが一日中とれる貴重な機会だと思う。都会の中でも町内会が活きていて田舎のような顔の見える関係性を築けているのは京都の良いところだと思うので，その中心となる地蔵盆は大事にしていきたい。

昨年は提灯の新調，夜間点灯を行い，日中にお参りして頂く様にお飾りお供え，お下がり配布をしました。大変でしたが行って良かったと思います。今年はそれも大変なので行わないとの事です。今後はお下がりとお菓子配布が継続されていくと思います。それにしても子供が居ないのでどうしようもありません。今年は幼児１人，小学生１人，中学生５人。今後，子育て世代が転居する予定もあり，来年はもっと減ります。もう大人向けの地蔵盆でしか継続出来ないと思います。

これから一つの町内会で地蔵盆を維持して行くことは難しいと思う。今の様な行事に頼っても方針がコロコロ変わるし，よく家庭でされている墓じまいの様に，地蔵盆じまいも真剣に考える時がきているのかもしれない。

お地蔵様に関しては京阪電車を挟んで，北側と南側に分かれております。大日天道如来尊と地蔵菩薩尊で地蔵盆の日にちも違います。学区自治連合会にも所属しておりませんので活動支援もなく，地蔵盆行事が無くなると「お供え」もなく，お地蔵様の「祠」の維持（損傷，腐食，備品の老朽，台風や大雨・大雪などの破損）の経費も持っておかねばなりません。昔から引き継がれたお地蔵様。私が生まれた時からお世話になってきました。お地蔵様の裏はぜ〜んぶ田んぼ，前は小川が流れ水車まで廻っていました。近所はみな木造の平屋建て，今のように新しい住宅が建ったわけでもないのに，住民や子供たちが多くいました。現在の様に核家族化ではなかったからかな？現在，子供会もありません。

私もこの町内に生まれ育ちました。地蔵盆は夏休みが終わる少し悲しい気持ちの時に，町内の大人の人達がこぞって楽しませてあげようといろいろな余興を考えて下さったり，お菓子をたくさん頂けたり，一日遊んでいてもしかられない，そんな楽しい思い出をいっぱい作って下さいました。お地蔵さんもいつもの祠から出てこられて一緒になって，少しほほえんでらっしゃる様でした。そんな風にお地蔵様や近くのおじさんおばさんに見守られているんだなと感じられる行事です。いつまでも続いてほしいです。

この暑い夏に外で遊ぶという行為は熱中症の恐れがあり，開催して万が一のことが起こると誰が責任を取るのか？楽しくにぎやかな地蔵盆というのは昔のことであり現在は取り巻く環境や気候が違いすぎて，どのように行うのか悩ましいところです。町民もいろいろな考えの人がいます。役員で決めたことに対して後から不服をご近所で話されたりする人もいて，何が正解なのかわかりません。募金の金額もそうです。上げるとなぜ上げたのか，下げるとなぜこんなに下げるのか？など，町内会の貯金はみんなの物であるのに古い人は個人の意見を言うだけ言って責任を取らないというのが一番頭を悩ますところです。子供さんがいらしても地蔵盆が煩わしく簡素化を希望する方もおられます。今年はお寺さんのお参りのあと，子どもたちにはお菓子詰め合わせジュース，QUO カード，そして町民にはおさがりを配る予定でおります。

地域の家族や子供の安全等の祈願のため，今後も出来るだけ続けていきたい。

この地域は高齢化の波の中心地のようなところです。60 代でも若手という地域です。今後の地域のことで不安なことがあります。

昨年の調査結果を読んで地蔵盆の意義を考えました。科学が発達しても目に見えない力，不思議な力があることを小さい頃から信じることが大事だと思うのでお地蔵様，大日如来様が町内安全等で守ってくださっている。神の存在？いい意味での信仰を持つと思う。年に一回，町内の人々が集まり協力して開催することはいいと思います。時代と共に変化していく地蔵盆でいい。感謝して一年一年積み重ねていけば良いと思います。

昔から続いている京都の伝統行事なのでぜひ守り続けていきたいと思っております。

お地蔵さんの世話をしている人が高齢です。世話ができなくなったらどうなるんでしょうか。

当町内は昭和 20 年代から開発された郊外の町です。転入者の多くは地蔵盆が盛んな町中からの人々で，その第一世代が今の地蔵盆の原形をつくり，その必要性を町内で共有できていた。次の世代である私も含め現役員も第一世代をみてきたためどちらかと言えばやらないよりもやるほうがよいという意識であるが，次の第三世代以後はその意識が薄れていることを心配しています。現在の子供は地蔵盆を単に夏祭りとおもっているようです。特に京都の市立学校で地蔵盆の意味や歴史を学ぶ時間があってもよいと思います。

お地蔵さんのお飾りについて以前は器用な方がたくさんおられ，ひもや電線で角材などをくくりつけて作っていたが，難しいので町内の方がネジでセットできるものを作って下さった。その設置方法もまた次の世代の方へ伝えていけるようわかりやすいマニュアルを作っていかなければと思っています。

地蔵盆の参加者が年々減少してくので後のことが心配です。

伝統であり継承していきたいと個人的には考えておりますが，お世話をする役員をやりたくないと自治会を抜けるご家庭が多く，当町の自治会加入世帯は全体の 4 分の 1 になっています。コロナ禍で人のつながりが薄れ，自治会で役員をしたくない人の退会が加速したため，自治会の存続も危うい状況です。率先して役員をやる方はおらず仕事をもちながら自治会長をやっておりますが，色々なお考えをお持ちの方もおり，ご意見を言われるとやる方がしんどくなります。地蔵盆等の行事も中止したほうが楽だったとも思ってしまいましたが，やはり，子供たちの笑顔のため，伝統を受け継ぐため，地蔵盆を開催してよかったと思っています。地域の助け合い，人とのつながりを大切に想い感謝し協力してくれる方が増えることを願っています。

京都でのお地蔵さんの習慣はいつ頃からあるか知りませんが，私の子供の頃から親はもちろん祖父・祖母からも聞いています。それはお地蔵さんはまだ信仰ができない赤ちゃんや子供を救う仏さんだからです。だから，お地蔵さんと言えば子供なのだと聞かされました。子供が少なくなると高齢者も対象になりますが，これも一理あるなあと思っています。いつまでも続きますように！

自分自身が小さい頃の思い出に地蔵盆は深く深く残っております。維持していくことは大変かもしれません。しかし，残して頂きたい。子供の心に残してあげたい。私の心に残っているもののように。

子供の数が減っているので 10 年後，20 年後どうなるのか心配です。

地蔵盆の行事は町内会として一年一度開催することはできているが，普段の管理をお願いしているご家庭が段々高齢化してくるので，何年かたって管理が困難になった時，どうしたらよいかと思っている。

子供の数が減っていく中，いかにこの伝統を守り続けられるか？金銭の負担もかなりあり（今年は 20 万円），行政の補助金を考える必要があると思います。

地域住民の減少は否めませんが，住民のつながりを保つ大事な行事と考えており，出来る限り続けて行こうと思っております。

町内の宝物である子供達の将来を考え地域として育てて行くことが大切なことで，これからも続けてゆければと思っています。

子供達の夏の思い出になったり，地域の方々との親睦を深める行事でもあるので，今後も続けていけたらと思っています。

地蔵盆の火を消さないためできるだけ頑張りたいと思います。年々，役員も高齢で継続も難しくなりました。

たとえ規模を小さくしても何らかの形で残していくべきと考えます。

地蔵盆以前は「子供のため」だったかもしれないが，今はお町内のお年寄りの親睦のためとなっている。土地柄，仕方ないと思う。それはそれで重要かと思う。

町内会の活動を元気一杯やっていれば何でも協力していただける。今回，用事で出席（参加）できない人が事前にお知らせいただき，また，お供えを頂いた。感謝。

宗教上の行事ではあるが，自治会の親睦を深める良い機会と考えています。①幼児～中学生が触れ合う，②大人（特に老人）と子供たちが触れ合う，③大人同士が触れ合う良い機会である

現在個人の敷地内にある祠をどうするか，町内の行事として行うのか，町内の親睦のために行うのか，マンションが多くなり町内住人が高齢化にどう対応するか（私も 70 代），町内の「組」自体をどうするか，子供の行事として行うのか，祠の持ち主が代替わりしたらどうなるのか，町内住人が 80 代以上になったらどうするか，地蔵盆の荷物は誰が預かるのか，子供さんたちが 1 人，2 人になったらどうするか，酷暑の日々，室外でするのか，高齢で「組長」が居ないと「組」自体どうするのか，といった課題を抱えています。

異次元の暑さとお盆休みの台風の襲来でこの時期のスケジュールが変更になったのか，参加されるご家族が少なかった。コロナでお地蔵さんが途切れたこともあり，子供さんも参加しての楽しさなんかがわからない方々も子供さんたちと仲よくなり，お母さんどうしいろんな話題で話に花が咲いており，夜は大人の地蔵盆で盛り上がりました。開催できてよかったです。

古き良き習慣は残しつつ現代にあった方法で継続していきたい行事であります。地蔵盆を行うことで，地域の子供たちにふれあい，子供達もまた記憶に残るものだと考えています。しかし，近年，人とのつながりを拒む（めんどう），自治会のあり方を疑問視する方も増えているかと思います。が，人は一人では生きていけず，人との関わりを断つことは出来ません。ふみこんでみたら，面倒な事も疑問視する声も消えるかもしれません。地蔵盆は子供を通じて大人も地域行事に参加できるチャンスだと思っています。各地域の地蔵盆，今度も継続してほしいと思います。

私が子どもの頃からいろんな事情が変わっているのでしょうが，昔はとても楽しみな行事だったので思い出に残っています。今の子どもたちにとっても少しでも記憶に残るものになればと思い，できる範囲で開催しました。短い時間でも子供達は楽しんで参加してくれてよかったです。

地蔵盆を続けていくことが大事だと思います。その時その時，町内で話し合いたいです。

地域の子供の健康や安全を願い続いてきた地蔵盆は京都に残る生活文化だと認識している。しかし，その主役である子供が減少していては中止も仕方がない。地蔵盆の行末は極めて大きな都市政策上の問題だ。

現在は地蔵様を個人宅に安置して頂いていますが，引っ越されたりすると地蔵様の行き場が無くなり，地蔵盆どころではなくなることが懸念されます。

地蔵盆は重要なコミュニケーションの場なので何らかの形で集まりたいと思います。

地域の大切な行事である地蔵盆についてアンケートをとって集約し，情報発信して頂くこと。これからの有り様について多方面から考えて頂くことは大変有り難いことと思います。アンケートに来て頂ける，2 日間も来て，ふごおろし等見て頂ける町内であることを誇りに思ったとおっしゃる町内の方がおられました。暑い中ご苦労様でした。研究・調査結果がまとまりましたら教えて頂けると嬉しいです。

住民の交流ということでとても大切な行事であると思います。宗教とか言われる方もいますが，何かものを大切にする心を子供たちに伝えることはいいことだと思います。

地蔵盆の内容はこれから変わっていくのかもしれませんが，子供が町内にいる限り，地蔵盆に興味のある人がいる限り，世話役がいる限り，継続して行きたいと思います。残念ながらこのまま行くとあと 6 年でこの町内から子供はいなくなります。

小商いをしている人が減ったので地域住民の文化がなくなってきている。

町内に地蔵さんがないので夏祭りとして実施しています。

昭和 20 年代後半から昭和 30 年代後半にかけては団塊の世代で子供の数も多かったですが，その世代がひとしきり遊んだ次は，子供ができたので″入らせて″，子供が高校生になったので″止めさせて″，次に孫が出来たので″入らせて″，孫が高校生になったので″止めます″といった保護者が急増した。即ち，子供が地蔵盆に関わる年代だけ世話になる風潮がある。子供がいてもいなくても，町内の一行事として捉えるのではなく，その時（子供が幼児～中学生頃まで）だけのお付き合いという思考のようです。そのうち町内に子供の対象者がほぼいなくなると発展的解消となるかもしれません。当方の場合は先代が家業の一催事に組み込んで継続させようとの意から今は続けております。

この地域にはお地蔵様が複数おられます。その為，近隣の住人がお世話（管理）されており，以前から地蔵盆なるものは行われておらず，それぞれ近隣の方が僧侶の依頼やお供えをされています。

納涼夏祭りと合わせている町内も見かけるが，あまり夏祭り気分をエスカレートさせずに地蔵盆本来の目的をしっかりと守りたい。先の町内の安心安全を願う。

ニュータウンにおいては宗教がらみの意見がとなえられ，全体で取り組むことは困難である。一方では地元で根づいている慣習でもあり，名称は「夏祭り」であるが，良い風習は続けたい。

地域が毎年衰退するなかで，地蔵盆や運動会に参加しない町内会が増え，また，簡素化する傾向があるなか，当町内では楽しく交流できる場にしていこうとしている。今年度は前夜祭（焼きそば，たこ焼き，かき氷，花火，スイカ割り）も実施し会員の半数以上が参加した。子供が 21 名いるが親と一緒に参加し楽しい交流ができた。70 世帯の町内会であるが全員，町内の法人にも協力を得て 12 万円の寄付金が寄せられた。役員や組当番も大変であったが全員が協力していただいた。つながりが希薄になっているなか，初めて顔合わせして，みなさんともて楽しんでいただいた。

＜考え＞
地蔵盆は子供達が主役の行事で，古くから子供の守り神として信仰されていたとも言われる伝統ある行事。昭和 30 年代生まれの小生にとっては，多くの子供達が集まって遊び，お菓子をもらえる楽しみな行事であった。その楽しみは伝統ある行事を子供達のためにも周辺の方々の協力，支援を頂きながら継続していきたいという強い思いがあります。
＜気づき＞
小学生以下の子供達が少なくなっている事や，地蔵盆自身の知識や謂れを知らない方が多くなっていることが懸念されます

地蔵盆ほど少子高齢化が如実に体験できる行事はないと思います。また，地域にもとから住んでいた人とマンションの購入で新しく住民になった方々との行事に対する取り組みの温度差をどう解消するのかという命題はずっとつきまとっています。行事を継承してゆくにあたっては高齢者の寿命と，いかに若年層を引き込むかの間で，正に時間との闘いになりつつあります。地域住民が絶滅したら地蔵盆も伝説になることでしょう。

伝統や文化の中にこそ大切な考え方や住民の和などがある。

町内の担い手が高齢化し，次の時代の担い手が減っている事が懸念されます

元々の京都人ではないのではじめは祠のあたりで何をされているんだろうと不思議でした。その頃はお地蔵さんの祠が個人のお宅の玄関先，前庭にありましたので，年数が経つにつれ，地蔵盆の意味なども知り，普段出会わないご近所さんとの交流の場にもなっていて良い行事だと感じるようになりました。ただ，猛暑の頃に準備も始まり，お世話役は特に大変だと思います。役に当たっていなくても祠の前でおしゃべりに花を咲かせ子供達のはしゃぐ姿を見られるのは楽しいことですし出来ればコロナがおさまったら元のような形に戻せたら良いなと思っています。改めて地蔵盆のことを考えさせていただき，アンケートをして頂いてありがとうございました。

今後，京の夏の風物詩として，この行事を形を変えても存続できれば良いなあと思うこの頃です！！例えば SNS を使って何かできないだろうか？（ただいま，思惑中です）

子供の頃に楽しかった思い出を大きくなっても思い出してもらえるような地蔵盆をこれからもしていきたい。

地蔵盆を盛んに行われ携われた方が高齢になり，ここ数年に引っ越してこられた子育て世帯は町内会に未加入。加入世帯でも共働きフルタイム・・・という生活環境で自治会活動にあてる時間確保が難しかったりで，地蔵盆開催に消極的な印象でした。地蔵盆を役でやってこられた高齢の方々も若い世代に流れや段取りを教示されることもなく「年やから若い人にやってもらわな・・・」と面倒なことをなすりつける状況も多くみられた。若い世代からすると，これまで引き継がれてきたことなので，教えて頂かないとわからないこともかなり多いので，世代を超えて，互いに協力する意識がないと行事開催は難しいと感じた。

自治会に入っている人の数が高齢化により年々少なくなる傾向がある。役員の負担が大変だからという理由が大きい。地域の結びつきが弱くなり，子供の数も少なくなるに従い，昔の地蔵盆もなくなるのではないだろうか。

10 年ほど前に工場跡に住宅が 20 軒ほで建てられ，中学生，小学生，幼児が 46 名になったので地蔵盆をすることにしました。住職の読経，説法後，お菓子，つかみどり，輪投げ，スーパーボールすくい，ビンゴ大会（大人も含む）等で半日で終わります。子供達も多数参加します。お地蔵さまに見守られてすくすく育つことを願います。参加者は子供達 30 名くらい大人 35〜40 名くらいで，朝の準備 15 名くらい（役員 5 名含む）。役員でもないのに率先して手伝ってもらった。

町内会のコミュニケーションの１つとして，いつまでも地蔵盆は続けて行けるよう若い人に引き継いで行ける様に願っています。

こども達が居ない。町内で心配しても何ともなら無い。国の政策の無策，京都市から他府県への転居，京都市の住みにくさ等，根本的な改善がなされ無ければ，京都のあらゆる文化の維持が困難だろう。危惧いたします。心配する１市民。

地蔵盆は町内会で運営されており，町会長の大きな負担となっている。文化継承のためにも，負担分散などの取り組みが必要だと思う。

地蔵盆を（子供をあつめて）やらない間に人が入れ替わるなどするなか，地蔵盆を知らない新しい人に役員をしてもらうわけにはいかないので１年おいてまた役員をやったが，次に役員をやってくれる人がいるのか難しい。

古くからある風習やお祭りなどは，地域活性化にもつながるため継続するべきだと思う。

私が幼い頃と比べて徐々に規模が縮小し，また手間をかけないようにしている。それでも続けようとする思いは町内には根強く感じます。

政教分離という難しい問題をかかえる昨今ではありますが，私たちの町では自治会費ではなく，寄付金で運営し，参加も自由です。ポイントはイベントを通して人流を作ることです。よく町内の人から「大変ですね」と言われます。大変な行事（山）を皆で協力し合い乗り越えることで絆を作り仲間を増やして来たのが私たちの自治会です。先人から連綿と引き継がれてきた行事も変化させながら若い世代にゆっくりと移り変わることを期待しています。子供達にとって故郷，高齢者には楽しい町，ホッとする町でありたい。

最低限の行事は省いてはいけないと思うが（後世に伝えていきたい京都の伝統行事なので），新しい事は少しずつ加えていくのは良いと思う。

昨年の調査結果のプリントは有ったが各町内の工夫やアイデア等の紹介をしてもらいたい。

地蔵盆については，町内の親睦を図る一大イベントであり続けたい。ただ，町内は高齢化が進んでおり，中学３年生１名をのぞいて子供がいない。活動可能な町内運営委員は８名で，役員の固定化が進むが，その８名うち３名が80代，１名が70代で，年とともに担い手が減っていく。

歴史ある行事ですので，何とか継続することが大切だと思います。

ビジネスホテル，ゲストハウスが増えた。後継ぎがいない。子供は減るばかり。

地蔵盆に限らず氏子の祭りの廃止，取りやめもあり，地域の伝統行事が危機に直面している。

他地域から嫁いだものとして，素敵な行事だと思います。（子供の頃に参加したかった！）。近隣のご町内は子供も少ないしということで地蔵盆の開催はしていないようですが，当町内が，なかなか派手に開催しているので，お金を払うので参加させて欲しいといわれたりします。また一から開催していくのは難しいかもしれませんが，町内の顔合わせ的な意味でも簡素的な開催をできればいいのになと感じます。

町内会会員の高齢化が進み，役割分担の出来る人数が極端に少ない。十年後はどうなるか心配です。

地蔵盆は，子供たちのお楽しみだけでなく，地域の交流や世代間のふれあいに欠かせないものであると思います。手伝いに集まった大人たちに顔を覚えてもらい，見守ってもらい，昔の話を聞いたり，遊びを教えてもらったり，文化の伝承などに役立っていると思います。ただお年寄りが次々に亡くなられており，僕たちが次の世代に伝えられているのか甚だ疑問です。

コロナ渦の間に年代が変わり，コロナ渦以前を知る役員が減ったことで今回は，元の形に一旦戻してみたいと思い，完全な形で戻した。実際に参加した子ども達はとても喜んでいたし，満足のいくものであった。それを受けて，次代の役員が今後の形を選んでいけば良いと考えている。

子供がいる限りこの行事は続けて行った方がいいと思っています。

昨今，町内会に入会しない方や，脱退される方もあり，会員の減少，会費の減収など様々な問題はありますが，子ども達の為にも継続できる様に考えていきたいと思います。

町内人口が少なくなりましたが，それなりに続いています。

私の地域は日本社会の縮図のようで，少子高齢化が著しく，地価高騰により戸建住宅世帯数も減少の一途をたどっている。宿泊施設，福祉関係事業所は出来たが，地蔵盆の担い手不足は解消されていない。

年々，町内会を脱会する世帯が増え地蔵盆行事すらいつまで続くか判りません。

地域にとって良い行事であると思うので，続けることが出来ればよいと思う。

昨年から町会長になり，周りの町内会では中止か役員のみでの開催が多かった。地蔵盆を開催したいが，どうしようかなと考えていた時に，前年度のアンケート結果を見て，それを参考に開催に踏み切った面が大きいです。

私は関東出身なので，京都に来てはじめて地蔵盆を知りました，私の居る町内はもともと地蔵盆のあとに夏まつりをやったりと，近辺の町内より盛大にやっていました，コロナもあり今年４年ぶりに地蔵盆のみの開催をしました，そもそも子どもの人数は減少傾向，土曜日ということもあって子供の参加人数は１０数名程度と少し寂しかったですが，抽選会なども開催したので，それなりに町内の人達には喜んでもらえたと思います。ただ，毎年変わる町内会長が地蔵盆を取りまとめていくのは，なかなか大変な事だと思いました。

コロナ禍後の感染症の心配はほぼしていない。慣例で無理が少々あっても続けていたことが，コロナ禍で断絶し，一気に様々なことが廃れてきた感じがする。ただ，いずれ直面する問題が現れるのが数年早まっただけて，課題の本質はコロナでなく少子高齢化であると感じる。

地蔵盆での宗教的儀式は，信教の自由の観点から好ましく思わないが，地域コミュニティの場としては必要と考える。

地蔵盆は正直面倒くさいのですが，お寺さんが来てお説法を聞き，みんなで数珠を回したりするのは子供達にとっていい経験だと思うし，外から来た私にとってはとても京都らしい伝統継承で絶やさず続けばいいのになと思う。けれど実際は参加する家族も減り，子供たちも週末は忙しく地蔵盆の開催は今後もっと困難になりそうです。今の時代にあった形で細く長く続けていけたらいいなと思いますし，こんな時代だからこそ，子どもたちの心の拠り所の一つとして身近にあるお地蔵さんとの関わりが今後も続けばいいのになと思います。

地蔵盆を継続する上でいろんな意見が有る。例えば，縮小して開催する等。

今回はたまたま大学生の力を使わせてもらい実施したが，来年以降どのように開催するのか。住民の中で話ができる人と話をする機会を作っていきたい。

今回，地蔵盆をしないという選択をしましたが，少し残念な気持ちが残りました。子どもの頃の楽しい思い出を今の子ども達にも味わってもらいたいのですが，大人になった我が子たちに意見を聞いてみると，特別な思いがなさそうでした。これも残念な事で寂しいですが，今回はコロナが増えてきてお年寄りも多いので，やめることになりました。

学区合同の地蔵盆で良いと思う。役が嫌だと町内を辞めて行く人が多い。年寄りも多いから何も出来ないと辞めて行く。町内会に入っていても何の利点もないらしく辞めたいと言われる方が多い。町内の存続の危機を感じています。

絶やしてはいけないとの思いを若い世代にどう継承していくか悩ましい。

コロナで町内の行事，学区の行事もすべて無くなり，コミュニケーションがますます希薄になって来ています。東南海地震など，いざと言う時，町内の人と人とのつながりが，助かる命を左右することは，阪神淡路大震災の教訓だと思っています。地蔵盆などの取り組みで，とりあえず，町内みんなの顔と名前を知ることが大切だと思っています。

昨年度，先へ繋げていく為に盛大に行い，後日アンケートと共に引継ぎましたが，自治会の高齢化等により，引継がれず元の様に縮小開催される事になり非常に悔しい想いです。

今年度中に道具の保管場所等について話し合う予定です。

子どもがいなくなったところは地蔵盆の存亡の危機があったりしますが，私の町内も数年前までは子どもが大変少なくなり危機感を抱いていました。しかし独居の高齢者が亡くなって新しい世帯が入ってくると子どもの数が増え，それに伴い地蔵盆を続けようという意欲が皆に湧いたと思います。「子どもは町内の宝である」という意識は今でも皆持っているように思えます。維持は大変ですが，やり終わったあと，子どもたちのことや町内のコミュニケーションが取れた満足感から，やはりやって良かったと思える行事です。

地蔵盆は子供たちの健やかな成長を祈り町内安全を願う行事であるとともに，世代を超えた住民の親睦の機会ですが，子供の人数の減少，担い手の不足，戸数の減少による影響などが続けば，地蔵盆の存続自体が危ぶまれまる事態になりかねません。今後コロナが収束しても，当町内では実行委員さんの負担軽減のため規模の縮小は続くと思われます。

自治連合会の行事には役割のあたった方のみ参加，町内会の存続が危うい中で，地蔵盆だけが唯一町内の方達が集まる「場」として機能し，横のつながりを保っています。縦横が有機的につながる必要を日々感じています。

町内が交流できる場として重要と考えるが，少子化をはじめとして課題も多い。

地蔵盆以前に町内会と言う組織の運営が崩壊寸前だと思う。